

# 郵趣リーフ作成ガイド

～初めてのトピカル・リーフ作り～

☆☆☆ 郵趣リーフを作る楽しみとは? ☆☆☆

美しかったり好きだったりする図柄が描かれている切手や風景印などを見つけたら、手元に置くなど、自分のコレクションにしたいですね。この様に、図柄に注目して切手類を集め楽しむ趣味をトピカル郵趣と呼んでいます。集めた切手などの郵趣品をより似たもの同士とか、発行目的が同じであるとして分類し、ストックブックに収めたり、ファイルノートに貼り付けたり、あるいはファイルボックスなどに入れて、まず保管しますね。



これらのコレクションの片隅には、関係する情報等のメモを置くと思います。自分自身に役立つメモですが、同時に郵趣仲間等に伝えたい貴重な説明文でもあります。また、コレクションも袋に入れたままよりも、整理して広げて見ていただく方が、仲間との会話も弾むことでしょう。

コレクションを見せる基本的な方法のひとつが、切手などの郵趣品を整理して、リーフと呼んでいる台紙に見栄え良く貼ることです。この整理は、全世界的に広く浸透していますので、外国人と郵趣の会話をする場合にも、通用します。

さあ、郵趣コレクションのリーフ作りを始めましょう。

## 公益財団法人 日本郵趣協会

ホームページ：<http://yushu.or.jp/> Eメール：[info@yushu.or.jp](mailto:info@yushu.or.jp)

TEL：03-5951-3311(代表) FAX：03-5951-3315

住所：〒171-0031 東京都豊島区目白1-4-23 切手の博物館4階

# リーフの種類

郵趣リーフ作りは、リーフと称する通常のコピー紙より少し厚手の台紙に郵趣品を並べ、貼り付けることから始まります。リーフの大きさは、国際的に使われるレターサイズ(横21.6cm、縦27.9cm)が基本です。最近はそのに近い大きさのA 4判(横21cm、縦29.7cm)も使われています。

郵趣サービス社が提供する商品名<ポストーク>リーフの大きさは、レターサイズと同じです。このリーフ作成ガイドでは、使用に便利で入手しやすいリーフのいくつかの種類を紹介します。

## 1) <ポストーク>ストックリーフ(綴じ穴：3穴)

ストックリーフには切手を収めるポケットが付いています。横幅175ミリのポケット数はリーフ上に1段から7段まで各種あります。

## 2) <ポストーク>標準方眼リーフ (綴じ穴：3穴)

3ミリの方眼が印刷してあるので、切手や後で述べるマウントを貼る位置決めに便利です。切手の枠線入れも簡単にできます。リーフの標準色は白色系ですが、最近では、アイボリー、グレーやライトブルー等もあります。

## 3) <ポストーク>パソコンリーフ

(綴じ穴：3穴と綴じ穴無しの2種のリーフがあります)

パソコンで郵趣リーフを作る場合、方眼印刷のないこのリーフが便利です。はがき並みの厚手のA 4判用紙を使う方も増えました。

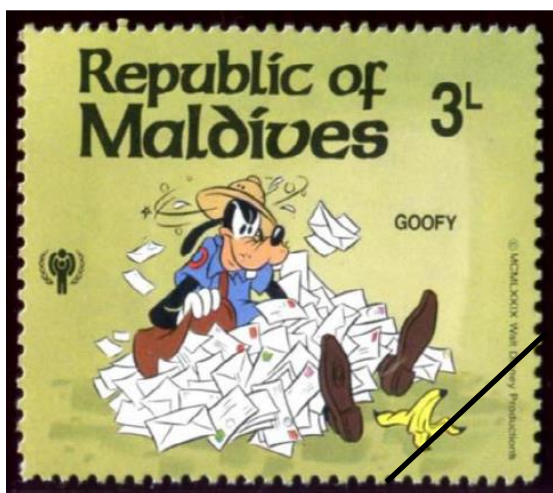
## 4) <ポストーク>展示用リーフ(綴じ穴無し)

2)と3)で紹介したリーフより厚い上質紙で綴じ穴がないために切手類の貼付部分が広く使えます。展示用デラックスリーフはさらに厚地の上質紙で、紙色が薄いアイボリーです。いずれも3.3ミリの方眼入りです。

•	<b>標準方眼リーフ</b>
•	3mm方眼印刷 レターサイズ判 横 21.6cm 縦 27.9cm 綴じ穴=3穴
•	

# 1. 郵趣品の収集と整理

## トピカル郵趣リーフを初めて作るには・・・



自分で関心を持ち、好きになる図案の切手類や風景印などを集めることから始めましょう。例えば、「富士山」とか「猫」とかの図案の切手や風景印などの切手類を収集し、楽しむことです。それらの収集品を眺めた時、嬉しさがなんとなく倍増したり、また図柄に秘められた物語などを自分で読み解いたりしている

うちに郵趣リーフ作りが自然と始まるでしょう。

集めた切手や風景印などは、相互に関連性が深く、また類似性の強いと思われるものを取りまとめて、ストックリーフに収めます。分類した切手類を収めたストックリーフの枚数が増えてくれば、それぞれのストックリーフには内容が一目で分かるファイル名を付けましょう。ストックリーフ1枚に収める切手類の数は、おおよそ20枚以下で良いでしょう。

未使用の切手だけでなく、郵便のために実際に使われた封筒やはがき、あるいは風景印とかがあると、コレクションの広がりが感じられます。郵趣リーフ1枚に貼る切手類の数は、恐らく15枚以下で良いでしょう。最初のうちは図柄別に集めた切手類に関して、発行国とか発行年とか分からなくても構いません。ただし、何が描かれているのか、その絵の意味が何かは切手以外の本も使って調べてくださいね。

さあ、これで郵趣リーフ作りのための切手類の手元準備は整いました。

## 2. 郵趣品の配列

### 切手類のグループ分けで 分類を決めよう



次に目的の図案のある切手類などの郵趣品を収めたストックリーフの束を、分類に沿って並べましょう。この順番が、目次に相当することになります。それぞれのストックリーフに付けた名を眺めると、さらに大きくまとまったタイトル

(作品表題)が浮かんで来ると思います。まず、このストックリーフ束の全体を表す仮のタイトルを書き留めておきましょう。

リーフ作りで最初に重要なことは、切手などを配列するために論理的な分類の仕方を作ることです。ただし、持っている切手などの種類や枚数により、自ずとリーフ数に制限があります。取りあえず、切手展のフレームに合わせて、4の倍数、4、8、12、16として目次作りをします。

目次の基本構成を説明しましょう。1ページ目はタイトルページです。ここには、作品表題、作品の概要説明とプランを書きます。プランはリーフ構成の概要で、目次に相当します。リーフ数が少ない場合は、このページの一部を作品スペースに使用できます。つぎのページから作品のリーフが並びます。作品表題に応じて、筋書き通り手順よく説明できる順序で作品リーフを配列します。展示フレームが1段4リーフであれば、作品リーフは4枚を単位として組み立てると分かりやすいでしょう。説明のため、内容を「章」や「節」に区分しても良いです。作品によっては、最終ページを「まとめ」のリーフにしても良いでしょう。

一枚のリーフにおける切手類の配列も、基本的にはリーフ構成と同じで、左から右、上から下方向に分類に沿った流れを作ります。カバー2枚を貼付する場合でも、同じ考え方を適用してください。

# 3. 郵趣リーフの作成

## 切手類の貼付や記述には 配置バランスが重要です

台紙にするリーフを、このガイドではポストーク方眼リーフに決めて説明します。ストックリーフに仮置きした切手類を、リーフ上に置いてください。リーフの上段には、リーフ内容を説明する小表題を記入しますので、その分スペースを空けておくことが望ましいです。

まず、基本的な切手類の配置の仕方ですが、左右上下のバランスを良くし、シンメトリー(左右対称)にして、必要な間隔を空けることです。これは、切手の大きさ、色彩、図柄の向き等についても同様です。リーフ上における切手類の全体としての配置型は、長四角型、三角型、逆三角型、五角系型、臼型、菱形などが考えられます。

切手は長方形であることが常識でしたが、最近は、変形が増えてきました。また、大きさも様々です。リーフ作成の時、切手の配置には大変苦労します。

切手の貼り付け位置が決まると、切手の形や大きさを配慮し、方眼線を利用して、定規を使って、鉛筆枠線を引きます。使用済み切手は、「ヒンジ」でリーフに直接貼り付けます。未使用切手は、裏糊のあるマウントに入れて貼り付けます。あるいは、マウントの糊代わりに、「貼って剥がせるテープ(弱)」を使用して、一時的に貼るのも便利です。

切手類の貼り付けが完了したら、要領を得た説明文を書き込みましょう。完成した郵趣リーフは保護ラップでカバーして、収納箱かバインダーに収納し、保管します。



# 4. 作品をフレームに 展示する

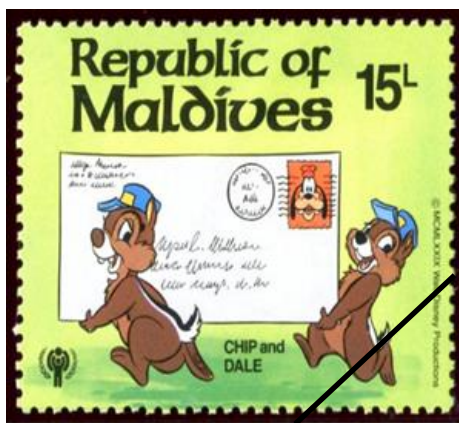
## 16枚のリーフをひとつにまとめよう

作った郵趣リーフを個人で展示する方法は、いくつかあります。例えば、ポスターを貼る展示用パネルを利用して切手の展示フレームとすることもできます。この場合、仮にB1判パネルであれば、横3リーフ×縦3段に割り付けて、合計9枚のリーフを展示することができます。

日本郵趣協会では展示用ビニールパネル(ポストークリーフ数で6枚用)を斡旋販売しています。リーフ作品の点検など、いろいろと便利なので、このビニールパネルを手元に置くのは良いですね。

日本郵趣協会などが開催する切手の展覧会では、標準の展示用リーフの大きさは、レター判かA4判です。16枚のリーフを収容できるフレームを標準仕様にしてあります。これに準じて、リーフ枚数は最大16枚で準備するのが都合良いと思います(注：最近では、レター判2枚分のダブルリーフなども使われます)。

リーフ16枚を単位として、リーフ配置を説明しましょう。展示リーフには、あらかじめリーフの左下角に展示順を書きます。フレームの左上1番目のリーフにタイトルページを置き、16番目のリーフを右下最下段に置きましょう。リーフは付加番号に従って、左側から右へ上段から下段方向へと配置されます。リーフに番号を振る前に、16枚のリーフ全体を床の上などに並べて、作品表題に対応した順序となっているかどうかを眺めてみることも大切です。



# リーフ作成に便利な用具類

## A. 必ず必要とする用具類

- \* 切手用ピンセット……切手を扱うために必ずピンセットを使用します(下図)。
- \* リーフ……綴じ穴のある標準方眼リーフか、A4判で通常のコピー用紙より少し厚手の紙を使用するのが良いでしょう。
- \* ヒンジ……使用済み切手をリーフに固定するために使う糊付き紙片です。ヒンジと切手の裏側にヒンジを貼り付けた状態を示しています(下図)。
- \* フィラートコーナー……写真のコーナーと同じ利用で、カバーの四隅に差し込み、リーフに固定するための糊付き固定用品のことです(下図)。
- \* 保護ラップ……作成した郵趣リーフを保護するためのラップです。

## B. あった方が便利な用具類

- \* マウント……主に未使用の切手を貼付するときに使う糊を引いた透明フィルム製のポケットです(下図)。定型の大きさにカットされたマウントも販売されています。切手の大きさは様々なので、自分で必要な大きさに大きいマウントをカットして使います。背景の色は黒色、ブラウン系色、透明などがあります。
- \* 方眼定規とカッター……大きいサイズのマウントを、目的の切手の大きさに合わせてカットするときに使用します(下図)。
- \* 透明フィルム・ポケット……封筒など大型の郵趣品を保護するためのフィルム・ポケットです。

右図に、横長マウント、方眼定規、カッター、マウントに収めた切手、ヒンジ、ヒンジ付き切手、フィラートコーナー、ピンセットが表示されています。



# 郵趣リーフとは何？

郵趣リーフには作成目的により、いくつか種類があります。このガイドでは、マイリーフ、アルバムリーフと展示用リーフについて簡単に説明しましょう。

## 1) マイリーフ

トピカル郵趣の場合、例えば、「猫」や「桜」が描かれた切手のように、同じ図柄の郵趣品を集めて、ストックブックに収納しますね。収集切手が多くなると、切手を収めるためのポケットのある<ポストーク>ストックリーフがよく使われます。このストックリーフにひとまずコレクションを集めましょう。1枚のストックリーフに切手類の整理ができたなら、それらをレターサイズやA4判のリーフ等に貼り付けることによりマイリーフ作成が始まります。

## 2) アルバムリーフ

切手類を貼付し作成したリーフが増えてきたら、それらを写真アルバムと同様にバインダー等を使ってファイリングするとリーフ集ができます。これが、仲間に見せて、分かりやすく説明できるアルバムリーフです。これなら、自分のコレクションで重複している切手を見つけることも、不足している切手類を調べることも、さらに情報追加も簡単にできます。



## 3) 展示リーフ

アルバムリーフの作成が終わると、次はより多くの人々に見ていただくために展示しましょう。展示のためのリーフ枚数は、展示用フレームの大きさとフレーム数で決まります。その制限内でリーフ枚数を決めて、順序立てたリーフ構成にして、作品を見ていただく方々に分かりやすく展示しましょう。

**郵趣をもっと楽しみ情報を豊かにするために  
日本郵趣協会に入会し、郵趣友達をつくろう**

製作：公益財団法人 日本郵趣協会 普及委員会（2021年度版）